

障害者施設職員のメンタルヘルス調査からみる労働状況(2)

—いじめ・セクハラ・パワハラの実態に焦点をあてて—

○ 武庫川女子大学 大岡 由佳 (6721)

深谷 弘和 (天理大学・7954)、峰島厚 (立命館大学・830)

[キーワード]障害者施設職員、いじめ・セクハラ・パワハラ

1. 研究目的

障害者施設においては、障害者自立支援法の施行前後で運営体制が大幅に変化しており、その中で事務量の増加や利用者・親対応のあり方の変化等が生じている。職員の非常勤化も進展する中で、職員の過重労働に伴い心身の不調が生じ、休職・離職をしていく職員が出てきている。同時に、そのような職場への人材離れが避けられない課題となりつつある。本研究では、現在の障害者施設職員の労働状況やメンタルヘルスについての調査を実施し、そこから見えてくる体制整備の課題や方向性を明らかにする。特に近年職場の課題とされている「職員間のいじめ・セクハラ・パワハラ」に焦点を当てる。

2. 研究の視点および方法

本研究は、障害者(一部児童も含む)施設の職員のメンタルヘルスと労働環境の状況について調査をしたものである。NPO 法人大阪障害者センターに設置された各施設の現場職員(管理職等)と研究者で構成された、メンタルヘルス検討会を母体に、調査内容の検討を行い実施した。調査対象は、大阪のきょうされん・福祉事業団加盟組織に属している障害児・者に対する福祉施設・事業の常勤職員並びに常勤の非常勤職員とした。調査の方法については、留め置き調査法の無記名調査とした。調査の質問内容については、障害者施設の労働状態を把握するための労働時間や給与、仕事の評価、仕事上の疲労蓄積度、並びに個々の生活状況、また、仕事上の不安や悩み、職場の満足度や職場でのソーシャルサポート、職場で重要と考える事項であった。仕事上の疲労蓄積度については、自覚症状(イライラ、不安、眠れない等)と職務状況(不規則勤務、深夜勤務負担、休憩等)を査定する「労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト(中央労働災害防止協会作成)」によって評価した。なお本報告では、統計的検定にはSPSS19.0 for windowsを使用し χ^2 検定等を行った。有意水準は、1%と5%を採用した。

3. 倫理的配慮

メンタルヘルス検討会内にて倫理審査委員会に準じた手続きを行った上、調査を実施した。調査依頼の際に調査協力が自由意思によるものであることを明確にし、文書にて説明を加えた。また、提出前まではいつでも調査参加の取りやめを出来ることを保証し、その調査協力参加を取りやめても決して職場で不利益を被らないよう最大限の配慮を加えた。日本社会福祉学会研究倫理指針を参考に量的研究のデータについては個人・組織が特定さ

れないように数値化して管理保管した。

4. 研究結果

本調査は24法人の協力を得て884件の回答が寄せられた。障害者施設職員の属性の内訳は、性別（男性41%・女性56%・不明3%）、年齢層（20代15%・30代22%・40代27%・50代20%・60代14%・不明2%）であった。また勤務先の主たる事業は、（日中活動の場〔旧法指定施設・通所を含む〕67%・住まいの場〔旧法指定施設・入所を含む〕23%・相談4%・訪問サービス1%・その他4%）であった。回答者の仕事上の疲労蓄積度合いは、自覚症状が、低群670名（76%）・高群214名（24%）であった。職務状況は、良好群833名（95%）・不良群は48名（5%）であった。「働きやすい職場のための取り組み・対策」について、「満足」な者は199名（24%）で、「不満足」299名（36%）・「わからない」337名（40%）であった。

「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」について、「あると思う（「非常にそう思う」・「ややそう思う」）」者が161名（19%）、「あると思わない（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）」者が711名（81%）を占めた。「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」があると思う者と性別や年代、主たる事業形態や収入状況には無関係であった。一方、仕事上の疲労蓄積度合い（自覚症状・職務状況）においては、「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」があると思う者において有意（ $p=0.000$ ）で、自覚症状の高群は66名（41%）、職務状況の不良群は19名（12%）と、全体と比べて2倍近く悪い結果であった。また、「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」があると思う者は、職場満足度41%（全体では75%）、就労継続希望53%（全体では77%）、しんどい度80%（全体では65%）、風通しよくない58%（全体では34%）と低調であった。「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」があると思う者の「働きやすい職場のための取り組み・対策」についての意識は、「満足」な者は10%で、「不満足」55%・「わからない」36%であり、全体よりも職場に不満足な状態にあった。「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」について、「非常にそう思う」と回答した者の記述部分（例）から、「私物を勝手に捨てる」「勤務的配慮が必要な方への無視やいじめ」「私の特性（発達障害）への無理解から執拗なハラスメント」といった内容が抽出された。

5. 考察

障害福祉現場においては、回答者の2割が「職員間のいじめ、セクハラ、パワハラ」があると回答しており、職場環境としては深刻な状況にあることが明らかになった。またそれらの行為は、メンタルヘルスを悪化させ、労働環境とも相関があったことから、早急に改善を検討していく必要があると考えられた。また、自由記述の例にもあるように、近年、障害者差別解消法が施行され、合理的配慮をおこなうことが求められる社会となったにも関わらず、障害者施設の職員の発達障害等の障害特性に応じた働き方を周囲の職員で応援する体制にないところもあった。障害福祉現場であるからこそ、他分野に先んじて障害特性に応じたよりよい労働状況について真剣に検討をしていかなければならないと考えられた。